

全国さんま棒受網地域漁業復興プロジェクト（大船渡地区③）

事業実施者：大船渡市漁業協同組合

使用船舶名：第二十一三笠丸(199トン)

支援期間：平成26年8月20日～平成29年8月19日

（さんま棒受網漁業）

（取組の内容）

- 省エネ・省コスト化：省エネ船型、大口径プロペラ、低燃費型主機関及びLED漁灯の採用等による燃油使用量の削減。
- 漁船の安全性・労働環境の向上：二重バラスタンクの設置等による船体復原性の改善、省力機器の搭載等による作業の軽労化及び全室空調完備等による居住環境の改善等により、労働環境及び乗組員の労働意欲の向上。
- 漁獲物の付加価値向上・高度衛生化：船上箱詰（大型魚）とブロック凍結品（中小型魚）の生産、高度衛生管理型大船渡市魚市場の活用による経営の安定化及び地域の活性化。



大口径プロペラ



地元で開催した祭りの様子

（事業の成果）

- 燃油使用量は、3年間（1年目：454 kl 、2年目：533 kl 、3年目：387 kl 、平均：458 kl ）とも復興計画の目標値（537 kl ）を下回り、省エネによる燃油使用量の削減という所期の目的を達成した。
- 水揚量（3年平均 1,950トン）は計画（3,089トン）に比し37%減少したが、平均単価（178円/kg）が計画（100円/kg）に比し向上したため、水揚高（3年平均 347百万円）は計画（309百万円）をやや上回った。
- 償却前利益（3年平均 72百万円）は、復興計画の目標値（同 37百万円）を大幅に上回り、次世代船建造への可能性が見通せるものとなった。